

新入生諸君へ



総長・学長

ながい かずゆき
永井 和之

日本の未来は君たちに。

本年度は入学式も通常の形では行わないという状況の中での、本学への入学、今君たちの胸にはどのような意気込みがありますか。すべての日本人が、世界中の人々が東北関東大震災でなくなられた方々に心からの哀悼の意を表しています。そして、今なお行方がわからない人々を心配しています。

新入生諸君には、常に震災の被災者支援と心をついにして、これからの生活を送られることを願っていますし、そうされることと確信しています。それが中央大学の校風であります。

家族的情味の一つの姿であります。全ての人々と家族的情味を共感すれば、世界は一つの家族であります。今、中央大学も全ての中大人を挙げて、このことを実践しております。諸君がこの輪の中にはいることが、まさに本学への入学ということになるでしょう。

このように社会の課題に 대응するということは、本学の建学の精神である『実地応用の素を養う』（これを「実学」と称している）ということの中で、これからの諸君が本学で学び、経験したことを、実践する場でもあります。諸君は、これからの大学生生活

の中で、将来何をして生きていくのか、自分の生き様は何かを掴まえて、そのような将来の自分を確立するための素を、身につけるのです。

そのためには、学業に専念し、また、多くの人との人間関係を構築し、その中で、自己を磨き、人とのコミュニケーション能力を鍛えることが求められています。幸い、本学は総合大学として六学部があり、また、全学共通科目や学部連携プログラム（FLP）等があります。このような多様な形での専門教育を提供しております。また、キャンパスには、多くのサークル等があり、学生達は自主的な活動を展開しています。学生達は、それぞれの時代において、時事問題をはじめ社会の問題に堂々たる主張を展開してきております。そのような伝統が脈々として受け継がれてきたのが本学の質実剛健という校風となっております。諸君もひとつ自分の目で見て、聞いて、考えるという学生生活を送ってください

い。その時、先ほど述べました本学の建学の精神である『実地応用の素を養う』の実践をしていることとなるのです。

このような本学における実地応用の素を養うという教育は、何も教室だけで行われているわけではありません。色々な目標を持った学生が生き生きと繰り広げるキャンパスライフそれ自体も、そして、そのような学生がお互いに切磋琢磨している姿に刺激を受けるキャンパスそれ自体も、教育の場と考えています。この中央大学生活を充実させるのは、すべての構成員がいかに燃えているかということに係っています。周りに期待するのではなく、自分で創造していくのです。それが本学の伝統であります。すなわち、「実学」であります。

新入生諸君が本学の学生であることに誇りを持ち、豊かな人間性をもった人間として成長されることを祈念して、私の挨拶とします。